

入選

ぼくと、小さな親切

栃木県 岩舟小学校

5年 籠谷隼葵

ぼくは最近、「小さな親切」かもしれないと感じた二つのできごとがありました。一つ目のできごとは、ぼくがじゅくの帰りに岩舟駅におりたときに、とまどっている様子の外国の男の人がいて、その人から英語で声をかけられたことです。

“Does this train go to Shinjuku? (この電車は新宿行きですか)” と聞かれて、

“No, this train, It go to Oyama. (いいえ、この電車は小山行きです)” と、ぼくはとっさに答えました。

そのことをお母さんに話すと、お母さんが、「両毛線は小山が終点だけれど、小山から乗りかえて新宿まで行けるよ。」と教えてくれました。もしかしたら、ぼくの説明が足りなかったのではないかと不安になりました。しかし、ぼくの答えはまちがいでないから大丈夫だという気持ちもありました。

迷ったのですが、ぼくはアプリで小山駅からの乗りかえ時間を調べて、それを英訳しもう一度駅へもどりました。その人と別れてから 20 分ほどたっていたのですが、その人はまだ駅にいました。ぼくは勇気を出して、調べたことをその人に伝えることができました。その人は、

“You’re very helpful and good at English. You’re very kind.”

(大変助かりました。あなたは英語が上手で、とても親切ですね。)

と、ニコニコしながらお礼を言ってくれました。ぼくは、迷ったけれど行動に移せたことで、その人の役に立てたと思うと、すごく心があつくなりました。

二つ目のできごとは、ぼくの家の前道路の中央に、自転車を引いたおばあさんがじいっと動かずに立っているのが見えたときのことです。もう薄暗くなっていて、危険だなと感じました。近くにいたお母さんに声かけし、おばあさんのところに行きました。おばあさんは、泣きながら「家に帰れない。」と言っていました。質問をしても、意味がよくわかりませんでした。

とりあえず、僕の家駐車場へ移動しました。認知症という病気らしく、けいさつに連絡して、ほごしてもらうことにしました。けいさつの人に来るまで、おばあさんをはげますような会話をしていましたが、伝わったかはわかりません。とにかくぼくは、おばあさんが事故にあわずにすみ、良かったと思いました。

おばあさんがほめてくれなくても、よろこんでくれるわけではなくても、人のことを自分のことのように考えながら、正しいと思うことができたと思います。また、小さな気づきと人を思いやる気持ちと相手のことを考えながら、少しの勇気を出して行動に移すことが親切につながるのではないかと二つのできごとから学びました。

お礼を言ってもらったり、ほめてもらったりしなくたって、「だれかのためにやって良かった」と、自分で思うことができれば、それが小さな親切だと思います。